

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月 29日提出

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|---------------------|--|------|
| 心理学部 | 准教授 | 藤岡 勲 |
| 研 究 題 目 | 2つの民族的背景を持つ人々の発達課題 | |
| 研 究 成 果 の 概 要 | <p>2つの民族的背景を持つ人々の発達課題の把握に資する研究を下記のとおり行った。</p> <p>まず、心理援助と社会・文化的要因との関係について、藤岡(2015a, 2015b)で論じた。これらを通し、臨床心理学を核とした学際的学問領域における本研究テーマの位置づけをより明確にさせた。</p> <p>次に、心理援助におけるやりとりを扱うプロセス研究についての方法論的検討(藤岡, 2015c, 藤岡・武藤, 2015)、および、実証的研究(久間(糟谷)・隅谷・坂本・首藤・吉武・今井・大石・野村・松下・長谷川・藤岡, 2015; 久間(糟谷)・藤岡・隅谷・福島・岩壁, 2016)を行った。これらにより、本研究テーマの知見を実践活動に応用させる際に重要となる心理援助のプロセスについて、一層深い理解につながった。</p> <p>さらに、心理援助の効果測定についての臨床家の意識も実証的に検討した(江上・川崎・古川・田中・慶野・藤岡・高野, 2015)。この研究により、本研究テーマの知見を実践活動に応用させ、その効果を測定しようとする際に考慮すべき点が一層明確になった。</p> <p>引用した研究成果リスト</p> <ul style="list-style-type: none">・ 江上奈美子・川崎隆・古川真由美・田中崇恵・慶野遥香・藤岡勲・高野明 (2015). 学生相談領域における効果測定の導入への意識に関する探索的検討. 日本学生相談学会第 33 回大会発表論文集, 41.・ 藤岡勲 (2015a). 文化をふまえた子どもと若者のための認知行動療法の実践. 精神療法, 41(2), 221-222.・ 藤岡勲 (2015b). 社会的(宗教的/性的/人種的)マイノリティに関する研究の現状: 異なる立場の共有からさらなる研究と支援の手がかりへ. 日本心理学会第 79 回大会発表論文集, SS(16). ※指定討論・ 藤岡勲 (2015c) ならえび臨床心理学のためのプロセス研究の基礎 ※公開講座講師・ 藤岡勲・武藤崇 (2015) “知ってるつもり!?” のプロセス研究: L. S. Greenberg の課題分析をまなぶ ※公開講座講師・ 久間(糟谷)寛子・藤岡勲・隅谷理子・福島哲夫・岩壁茂. (2016). セラピストによる肯定的発話の類型化. 臨床心理学, 16(1), 90-98.・ 久間(糟谷)寛子・隅谷理子・坂本憲治・首藤和佳子・吉武美紀・今井瑞七・大石彩乃・野村朋子・松下弓月・長谷川かさね・藤岡勲. (2015). 家族初回面接における家族内葛藤の表出プロセス. 日本心理臨床学会第 34 回大会発表論文集, 145. | |

